

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	子どもサポート広場ぐんぐんロケット		
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 19日		令和8年 1月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	74人	(回答者数) 43人
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 19日		令和8年 1月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9人	(回答者数) 9人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	スタッフは専門職(保育士・社会福祉士・心理士など)を配置し、必要性に合わせて母体のリハ病院よりセラピストのサポートをうけることができる。	・療育中のご様子や保護者様の困りごとに合わせてセラピストの支援を迅速にいれるようにしています。また、感覚統合療育にはセラピストの支援をいれ、より専門性の高い療育の提供しています。 ・セラピストによる職員研修を開催し支援の質の向上に努めています。	今後もセラピストとの連携を密にとりながら支援の質の向上に努めます。また、外部講師によるスーパーバイズも継続し学び続ける姿勢を大切にしていきます。
2	スタッフのチームワークがよい。支援についてのミーティングに力をいれている。	・支援に入る前に、役割分担や配慮点を確認しています。 ・支援の振り返りを大切に、担当者だけでなくチームみんなで支援の方向性を検討しています。	今後も、ミーティングを大切にしながら支援の質の向上に努めます。
3	保護者様と子育てについて共有しやすく、よりよい関わり方についてすり合わせていくことができる。	全利用児を親子療育とし、療育中のご様子やご家庭のご様子をうかがいながら、お子様の得意不得意を整理し、今後の支援について一緒に検討していくようにしています。	今後も親子療育を基本とし、お子様一人一人に合わせた支援の提供に努めます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	情報発信が不十分で保護者様に日頃の活動を報告できていない。	情報発信の場を設けていなかった。	令和8年度より、月1回の会報を出すことといたしました。その中で、職員研修や避難訓練といった活動を報告し、保護者の皆様により安心してご利用できるようにしてまいります。
2	室内が狭く、移動に負担をかけている。	構造化の必要性と不便さを比べた時に、必要性が上回ると判断している。	・スケジュールの進め方を工夫し、利用者様が不便さを感じないようにしていく。 ・遊具に加え、室内の点検も更に強化し、安心して過る環境を提供していく。
3	保護者同士がつながりを持ったり、学びを深める機会の提供が不足している。	・保護者会の開催はしているものの、広報が不十分であったり、案内を出すのが遅かった。 ・魅力的な学びの場を提供できていなかった。	・来年度より、言語聴覚士や心理士を講師とした勉強会を複数回開催予定です。 ・年間計画や会報を通じて、早めにお知らせをすると共に療育中にも気がけて声かけを行っていきます。